

# 2011 ワイワイおしゃべりフェスティバル

聞く!

## 東日本大震災 被災地の女性の現実

—マスコミが報じないあれこれ—  
パープルダイヤル相談員 井阪 玲子さん



東日本大震災から2か月後の5月、井阪さんは宮城県と岩手県を訪れ被災地の現状を見てこられた。ある避難所では炊事、洗濯が女性だけに割り当てられていた。1日おきに朝5時に起き、100人から200人の食事を日に3回作る。2か月間、ずっとこの状態が続き、男性と違う境遇で女性たちは疲れきっていた、という。

避難所の責任者・リーダーは大多数が男性。トイレや着替えもままならず、男性に改善を求めても女性の声は届きにくい。つとめて女性の要望を取り入れようとしているような避難所は、みんなの表情も明るく運営が円滑に進んでいるとのことだった。防災計画の段階からぜひとも女性の視点を入れておいてほしいものだ。

※パープルダイヤル…DV（配偶者などからの暴力）や性暴力の電話相談を受け付ける。☎ 0120-941-826（通話料無料）

2011年8月28日（日）、泉佐野市立生涯学習センター多目的室において「ワイワイおしゃべりフェスティバル」が、男女共同参画社会を目指す、いずみさの女性センターと女性センターを拠点として活動する8グループで構成される、いずみさの女性センターネットワーク（略称IWN）の共催で行われた。

2011年3月11日、東日本大震災が発生、その被害の大きさと深刻さが、今もなお続いている。13回目を迎える「ワイワイおしゃべりフェスティバル」は、災害に備えて「自分にできること」をテーマとして学び、考え、あわせて各グループ紹介の中から災害支援の重要性を訴える内容となった。

最初に人権推進課 辻英樹課長代理より挨拶があり、続いて司会担当の「ゲー・チョコキ・パー」村田恵子さんからの呼びかけで、東日本大震災で亡くなられた方々へのご冥福をお祈りして、参加者全員で黙祷を捧げたあと開会された。



学ぶ!

## 日ごろから備える! —泉佐野市の防災対策—



泉佐野市 市民協働課 危機管理担当参事 松林 俊幸さん

まず東海、東南海、南海地震の想定震源域や発生の周期が示された。この地震は、近い将来、発生する可能性が高い。プレート型の地震が発生すれば津波が起こる。その津波が、4メートル以上あり、防潮堤を越えれば、泉佐野市内では南海本線山側まで避難しなければ危険。日ごろから災害が起きたときの避難場所・避難経路・家族との連絡方法等話しておくことが必要。住民各人の災害に対する備えや、心構え、地域の人たちの連携が大切であると話された。

泉佐野市の災害時に備えた末広公園内の備蓄倉庫には、α化米、水、簡易トイレ等が備蓄されており、その他の日常必需品については市内大手業者と提携し確保を図っている。また飲料水確保のため震度5で自動的に配水池が貯水タンクとなる水道局の取り組みが紹介された。

発表

## グループ「大阪友の会 泉南方面」

### 防災リュックの中は な～に?



大阪友の会は雑誌『婦人之友』の愛読者の集まり「全国友の会」に属する団体。エコライフや環境問題への意識が高く、防災にも積極的に取り組んでいる。

紹介された防災リュックの中から出てきたのは…、手袋、ソックス、折りたたみバケツ2個（きれいな水用と汚水用）。小銭や家の鍵も。はきやすい靴、そして防水風呂敷に包んだ衣類など。思いも及ばなかった、しかしざという時に役に立ちそうなものが続々と現れて、なるほど！ 今年さまざまな災害にみまわれた日本。防災に対する意識は常に持ち続けなければ、と思う。

友の会は東日本大震災の復興支援もしていて、被災地からの要望にきめ細かくこたえている。例えばひと組ずつ柄の違うレッスンバック・袋セットを40組、などという依頼にもきちんと応じることができた。会員たちの熱い思いが活動を支えている。

ワーク

## グループ「エンパワーズ」 今の私にできること!

### ① コミュニケーションワーク「今の私にできること」

月に1度〈円パワー・デイ〉と定め、コミュニケーションワークで信頼関係を築き、男女共同参画社会に向けての活動を続けているグループ「エンパワーズ」の中村初美さんの軽妙な進行で、ワークが進む。1テーブル6名の参加者が自己紹介と「今の私にできること」を用紙に書き込み、各テーブルごとに話し合う。日ごろ顔を会わさない他のグループのメンバーや、初めての参加者とふれ合えるひと時となった。

### ② 障害者の被災体験 —阪神大震災を被災して— 福井 隆三さん

阪神淡路大震災の時、神戸で被災され、家族と離れて泉佐野市に単身で住まわれた聴覚障害のある福井さんは「今の自分にできること」は被災にあった体験を伝えることと考え参加された。女性センターのスタッフ樽井さんが、福井さんの手話を音声に替え、中村さんと会場に伝える。中村さんの問い掛けは、スタッフの竹森さんが手話で福井さんに伝える。

福井さんから、聞こえないために情報を得る困難、避難時、声かけができず家族の安否への不安、避難生活での会話の不自由さを話された。文字パネルでの伝達方法や、高齢者、障がい者に対する個々への支援の必要性を強く訴えられた。



グループ「NPO 法人ウイス生活支援センター」…保育つき子育て支援講座の企画運営。

災害時には? 「もちろん、災害時も子育て支援を続けたい。」

グループ「アフタークラブ」

…定年前後の男性がセカンドライフについて語り、行動するグループ。災害時には? 「地域の中で災害支援活動をしたい。」

味わう! グループ「女と男のクッキングナイト」

…おやつタイムに登場し

た「石垣まんじゅう」はこの料理グループの力作。災害時に用意できる材料で。さつまいものやさしい甘さに舌つづみ!



グループ「NPO 法人 保育サポーターゲー・チョコキ・パー」…子育てを手助けする有償ボランティアとして活動中。

災害時には? 「一時保育をします。」

楽しむ!

## 手話ダンス

手話ダンスのグループ「スプリング」は、今年はゲスト出演。会場が一気になごやかで楽しい雰囲気に!



グループ「てる」…毎週水曜日に女性のための電話相談 (☎ 469-7402)。

災害時には? 「避難後電話が通じれば、女性のための電話相談を!」

グループ「ウィークエンドサロン」

…映画を観て楽しみ・考え・語らうグループ。災害時には? 「まず三日間は一人でも耐え、生き抜きたい。」